

国語 第5学年 五年生をふり返って

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、一年間の国語の記録から変わったことを選び、以前と今の具体的な違いが伝わるように書く。楽しかった活動名の列挙で終わらせない。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名「五年生をふり返って」 教材名「五年生をふり返って」

2 単元の目標

言葉が経験や考え、相手との関係を表す働きをもつことに気付くことができる。自分の学習の記録から書くことを選び、伝えたい変化を明確にすることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①言葉が経験や考え、相手との関係を表す働きをもつことに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、自分の学習の記録から書くことを選び、伝えたい変化を明確にしている。（B(1)ア）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

一年間の国語の記録から変わったことを選び、以前と今の具体的な違いが伝わるように書く。楽しかった活動名の列挙で終わらせない。学習指導要領のB(1)アを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)アを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

本人のノートや作品を使い、前と後の同じ観点を比べる。記録をなくした児童には授業内で再現できる短い活動を用意し、他の子との優劣でなく本人の変化を扱う。おおむね満足できる状況は、自分の学習の記録から書くことを選び、伝えたい変化を明確にしているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

第1次 第1時（本時）：○前の作品や学習記録を選ぶ。言葉の使い方の変化を比較する。根拠を選んで振り返りを書く。次に確かめたいことを述べる。 評価：思①（発言・学習記録）

6 本時の指導（1／1）

（1）本時の目標

自分の学習の記録から書くことを選び、伝えたい変化を明確にすることができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：使う教材を確かめ、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。

○「前の自分と比べて、言葉の使い方の何が変わりましたか」

【めあて】一年間の国語の記録から変わったことを選び、以前と今の具体的な違いが伝わるように書く。

予想される児童の反応：・初めは短い感想だったが理由を書けるようになった。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「前の自分と比べて、言葉の使い方の何が変わりましたか」

前の作品や学習記録を選ぶ。言葉の使い方の変化を比較する。根拠を選んで振り返りを書く。次に確かめたいことを述べる。

以前の記録、今できること、根拠となる言葉や文章、次に試したいことの振り返り。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

予想される児童の反応：・初めは短い感想だったが理由を書けるようになった。

・質問をして聞けるようになった。

・今も確かめたいことがある。

指導上の留意点：本人のノートや作品を使い、前と後の同じ観点を比べる。記録をなくした児童には授業内で再現できる短い活動を用意し、他の子との優劣でなく本人の変化を扱う。

想定するつまずき：成果を大きく見せるため記録にない変化を書く、できなかったことだけを書く。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 自分の学習の記録から書くことを選び、伝えたい変化を明確にしている。(発言と学習記録)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・今も確かめたいことがある。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「前の自分と比べて、言葉の使い方の何が変わりましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時に確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

